

# 「北海道大学体育会ワンダーフォーゲル部創立 70 周年

## 記念式典・祝賀会の開催」

### (お知らせ)

**概要 :** 1955（昭和 30）年に国立大学のワンダーフォーゲル部として 3 番目の「北海道大学体育会ワンダーフォーゲル部」が創部され、今年 2025（令和 7）年に創部 70 周年を迎えた。70 年にわたる活動において、道内各地の山行や川下りに加え、北大が所有する手稲パラダイスヒュッテ・奥手稲山の家の管理活動を行ってきた。また、数度の海外遠征や、野村良太による「積雪期単独北海道分水嶺縦断（2022 年植村直己冒険賞受賞）」などの活動も行われてきた。これらの活動の中では数度にわたる辛く厳しい遭難事故も経験したが、その度に真摯に原因の究明と対策を講じ、「学生団体として安全な活動を行うために何ができるか」を問い合わせながらその活動を継続してきた。そして、このような 70 年間の活動の最も重要な結果として、「北海道の自然を知り、愛する、有意の若者 750 名余を日本と世界に送り出す」ことができた。このような部の活動を俯瞰し、今後も継続する目的から、2025 年 7 月 19 日（土）に創部 70 周年記念式典と祝賀会を実施する。

## 1. 従来の経緯

戦後、全国の大学で、自然に親しむという趣旨のワンダーフォーゲル部が設立された。北海道大学でも 1955（昭和 30）年に「北大ワンダーフォーゲル部（のちの北海道大学体育会ワンダーフォーゲル部）」が創部され、今年 2025（令和 7）年に創部 70 周年を迎えた。

初代主将の土岐基は、「我々は、手軽に気軽に、のんびりと、まるで鳥が羽ばたくように自然に飛び込んでいくだけのことだ。自然を愛するというよりも、自然に溶け込むことだ。自然の一部になりきって、人間の歴史を観察する。それがワンダーフォーゲルの目的だ。」と「アルピニズムに対する自然融和的な旅というワンダーフォーゲル活動像」を明確に掲げた。この考えは現在の部にも受け継がれている。

1955～1960 年は創成期で、部員の多さと装備不足から日帰り登山、サイクリング、海岸・平地歩きが多かったものの、表大雪、利尻山にも足跡を残した。その後の 1960 年代には部員・知識・装備も増え、山岳への志向が高まった。集中登山形式の大雪山の強化合宿やニセコ山塊での冬合宿が始まったのもこの時期である。さまざまな形態のワンデリングが試され、夏山登山、川下り、スキー・アイゼン・ピッケルを用いた冬期山行など、多様なワンデリングが展開され、現在の活動に続く基礎ができた。1980 年代以降になると、ヒマラヤなどへの海外遠征も盛んに行われ、そこで得た知識・経験も部に還元された。その結果、1990 年ころから部員数、リーダー層ともにバランス良く高度化された活動へとシフトした。2020 年からのコロナ禍による活動自粛は部活動に打撃を与え、継続性の意味で大いに心配されたが、現在は従前の活動のレベルまで回復し、再び多様な活動を展開している。

この間、1960 年にニセコアンヌプリ遭難、1972 年にニペソツ事故、1994 年に十勝岳 OP 尾根遭難などの辛く厳しい遭難事故を経験した。部では、その度ごとに真摯に原因の究明と対策を講じ、学生団体として安全な活動を続けるために何ができるかを考え続けながら活動を継続してきた。

## 2 : 主要な活動結果

このように 70 年に渡る活動において、大雪山系（写真 1）、日高山系（写真 2）、知床山系、札幌

近郊の山行や川下りに加え、北海道大学が所有する札幌近郊の山小屋（手稲パラダイスヒュッテと奥手稲山の家（写真 3））の管理など、社会貢献に資する活動も行った。

海外活動としては、数度の海外遠征（1965 年台湾遠征、1980 年インド・ヒマラヤ遠征（未踏峰 Z1 初登頂）、1981 年パタゴニア遠征、1989 年パキスタン・ヒンズークシユ遠征（未踏峰アスマン・アビー、ギリシェール初登頂））に成功している。また最近の話題としては、2022 年の野村良太による「積雪期単独北海道分水嶺縦断（2022 年植村直己冒険賞受賞）」（写真 4）が挙げられる。

そして、このような 70 年間の活動の最も重要な結果として、「北海道の自然を知り、愛する、有意の若者 750 名余を日本と世界に送り出す」ことができた。

このような部の活動を俯瞰し、今後も継続する目的から、7 月 19 日に創部 70 周年記念式典と祝賀会を以下のように実施することとなった。

### 3. 創立70周年式典・祝賀会の詳細

「北海道大学体育会ワンダーフォーゲル部創立70周年記念式典・祝賀会」

主催：北大ワンダーフォーゲル部、同OB会

日時：2025年7月19日（土）16時～18時30分

場所：ホテルライフォート札幌（中央区南10条西1丁目1-30）

参加者：北大ワンダーフォーゲル部、同OB会メンバー、300名以上

### 【本件に関する問い合わせ先】

・ 北海道大学ワンダーフォーゲル部OB会 事務局長 小田島 一典

e-mail : [huwvobkajimukyoku@gmail.com](mailto:huwvobkajimukyoku@gmail.com)

電話 : 080-3238-8151

・ 北海道大学ワンダーフォーゲル部 顧問 林 直樹 （北海道大学大学院獣医学研究院）

e-mail: [n-hayashi@vetmed.hokudai.ac.jp](mailto:n-hayashi@vetmed.hokudai.ac.jp)

### 【関係 URL】

北海道大学体育会ワンダーフォーゲル部 : <https://huwv.org/>



写真1 冬の大雪山。旭岳山頂よりトムラウシ・十勝連峰を望む。



写真2 秋の日高山脈。コイカクシュサツナイ岳付近より 1839 m 峰を望む。



写真3 北海道大学ワンダーフォーゲル部が維持管理してきた「奥手稻山の家」



写真4 野村良太による積雪期単独北海道分水嶺縦断。ゴールの襟裳岬にて。